

片倉シルク記念館はかつて同じ敷地に立っていた熊谷製糸場に敬意を表して造られた記念館である。記念館は、工場の2つの古い繭倉庫を改装した建物の中に建てられている。1873年に設立され、121年間にわたり絹産業の大部分を占めてきた片倉工業株式会社の所有者は、富岡製紙場の所有権を引き継ぎ、1987年に閉鎖するまでそれを稼働させた。同社は最新の全自動製糸機を更新する責任を負っていた。これらの機械の例は富岡製糸場と片倉シルク記念館でみることができる。実は、これらは他国でいまだに使用されている。片倉工業はもはや生糸を生産していないが、絹生産の知識を維持するために、記念館は工程の各段階で使用される機械の例を展示している。